



確信にみちたエネルギーにふれて

愛知県 よしいけ保育園 伊奈泰子

施設に入ったとたん、女性代表の明るい笑顔とあふれるエネルギーに迎えられ、その雰囲気引き込まれた。

同じ建物内に対照的な《補助あり》の保育所がありながら、保育料が4倍の《補助なし》のYMCA保育所の方が、安定した94%の生徒数を確保し、なおかつ待機児童までかかえている所以は、

※幼児教育への揺るぎない確信

※保護者との安定した信頼関係

ではないかと、お話の中で察する事ができた。

一日がタイムリーに仕切られていて、どのクラスも同じようなテーマの製作物が飾られていることから、一般的によく見られる日本の保育スタイルを彷彿とさせられた。2歳から文字に触れさせ、教える側面が際立って見える所から、(子どもの心身発達・育ちをどう捉えているのかな・・・?)との懸念も残った。

しかし、ビルの谷間の屋上で思い思いに保育士に寄り添われながら、固定遊具等で遊び興じている子どもたちの表情は、国境を越えて、皆同じだなあ〜とほのぼのした安らぎを覚えた。

当施設に限らず、今回の施設訪問で一貫して感じたことのひとつは、互いの違いを認め、受け入れる

空気が流れているということである。そうした空気は子どもたちの中に自然に浸透しているのではないかと思われる。

ともすると、多文化社会・多国籍社会が差別につながり兼ねない環境下だからこそ、介護や教育に携わる人びとが、〈かけがえのない人格〉〈人として生きる権利〉の原点を、意識的に問いかけ続けているのではないだろうか。

こうした基本的な信念をベースにし、「見て感じる子・聞いて感じる子・触れて感じる子等々、一人ひとりの学びの入口を尊重し、大切に関わっている」との代表の話には共感を覚えた。それは、子どもの興味に分かれた室内のコーナー構成からも感じ取ることができた。

ただ、YMCAという財団法人の性格も起因するのか、〈教え注ぎ込んでいく〉といった色合いが印象的ではあった。

その中でも、ごく自然に文字・数・色などへの興味・関心がもてる環境を提供している配慮も察せられた。

代表者を中心に、明るい開放的な空気が子どものみならず、保護者の熱い信頼につながっていることが伝わってきた施設見学だった。